

## A. 主な動き

### 1. 内政

- ・17日、議会共産党会派を6月に離脱したミシン議員は、タルレフ元首相と共にキシナウにおいて新党「復興」党の創立大会を開催。
- ・18日、議会常任委員会は、27日に議会秋冬会期が開会する旨決定、一方、関税同盟加盟の是非を問う国民投票実施に関する審議のため20日に臨時本会議を招集する共産党議員による提案を却下。
- ・20日、トカチュク共産党議員は、同党はモルドバの関税同盟加盟に関する議論を推進させるとし、議会秋冬会期はボイコットしない意向である旨発言。

### 2. 経済

#### ▼マクロ経済

- ・18日、国家統計局は、2012年上半期の実質GDP成長率を0.8%と発表。

#### ▼対モルドバ支援

- ・21日、フィラト首相とモルテラー欧州投資銀行(EIB)副総裁が会談し、モルドバの農地灌漑プログラムに対し、EIBが2億7,200万ユーロを融資することで合意。

#### ▼農業

- ・21日、ブマコフ農業食品産業相は、今年のブドウ生産量は対前年比20%減の48万トンの見込みであり、干ばつの影響はあったが品質は良い旨発言。

### 3. 外政

#### ▼レアンカ副首相兼外務・欧州統合相のラトビア訪問(14～17日)

- ・14～17日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、ラトビアを訪問し、外交・安全保障問題に関する「リガ会議2012」に出席、沿ドニエストル紛争解決に向けたモルドバの立場等を説明。
- ・17日、レアンカ大臣は、ベルズインシュ大統領と会談し、両国政治対話、経済協力等の深化に関し協議。ベルズインシュ大統領は、モルドバの欧州統合及び領土一体性を支持する旨発言。また、レアンカ大臣は、リンケービッチ外相との会談において、貿易・経済関係等の二国間関係活性化、モルドバの欧州統合における協力等に関し協議。

#### ▼欧州議会会派代表の来訪

- ・17日、ティモフティ大統領、フィラト首相及びルプ議会議長は、来訪したダウル欧州人民党グループ代表と会談し、モルドバの欧州統合及び国内改革等に関し協議。
- ・17日、ティモフティ大統領は、来訪したスウォボダ欧州議会社会民主進歩同盟グループ代表と会談し、モルドバの民

主化に対する欧州議会の支援に謝意を表明、沿ドニエストル問題に関し意見交換。同日、ルプ議会議長は、スウォボダ代表との会談において、モルドバの政治・経済及び社会情勢及び東方パートナーシップの枠組みにおける議会間協力の拡大に関し協議。18日、フィラト首相は、スウォボダ代表と会談し、欧州統合に向けた政府の方策に関し説明。

#### ▼ルプ議会議長のPACE国会議長会合出席(20～21日)

- ・20日、ルプ議会議長は、ストラスブールで開催されたPACE国会議長会合に出席し、モルドバは過去3年間欧州統合に向けた欧州評議会に対する民主主義の強化等の義務を実行しているとし、欧州評議会によるモルドバの監視の終了を請願。
- ・20日、ルプ議長は、ヘイニャルオマ・フィンランド国会議長と会談し、両国貿易・経済関係及び議会間関係の強化等に関し協議。ヘイニャルオマ議長は、2013年～14年のフィンランドの国連安全保障理事会非常任理事国入りへのモルドバの支持を要請。
- ・21日、ルプ議長は、ミニョンPACE議長との会談において、沿ドニエストル問題等に関し協議。また、同日、ルプ議長は、フィーニ・イタリア下院議長及びアーボルディニャ・ラトビア国会議長とそれぞれ会談し、モルドバの欧州統合等に関し協議。フィーニ議長は、イタリアはモルドバの欧州統合路線を支持する旨発言。

#### ▼その他

- ・17日、フィラト首相は、来訪したゲオルギエヴァ国際協力・人道援助・危機対応担当欧州委員との会談において、当面のモルドバの目標は連合協定、自由貿易協定交渉及び査証免除のための行動計画の完了であるとし、国内改革の継続を強調。ゲオルギエヴァ欧州委員は、欧州委員会は干ばつ被害を受けた農民を救済するため5,000万レイ(約315万ユーロ)を支援する用意がある旨発言。
- ・18日、ギンプ自由党党首は、与党連合AEI代表者会合において、モルドバは欧州統合を目指すとし、(ロシア産ガス価格割引の条件である)EUの第3次エネルギー・パッケージ参加見送りの意向はない旨発言。
- ・19日、フィラト首相等及びレアンカ副首相兼外務・欧州統合相等は、ブリュッセルを訪問し、エッティンガー・エネルギー担当欧州委員等とモルドバの欧州統合、エネルギー分野等におけるモルドバ・EU協力等に関し協議。双方は、モルドバ社会の民主化の重要な要素である改革の継続の必要性を確認。

## 4. 沿ドニエストル

### ▼クレイトン・アイルランド欧州担当国務大臣の来訪

・19～21日、クレイトン・アイルランド(2012年OSCE議長国)欧州担当国務大臣は、モルドバを訪問し、ティモフティ大統領、フィラト首相、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相及びカルポフ国家再統合問題担当副首相等と会談し、モルドバにおけるOSCEの活動に関し協議。ティモフティ大統領は、沿ドニエストル問題に関し兵力を含む様々な方法でロシアがモルドバの分離勢力を支援している旨指摘し、平和維持部隊を国際委任統治下の文民ミッションへ変更するモルドバの立場を説明。

・20日、クレイトン国務大臣は、ティラスポリにおいてシュタンスキ「外相」と会談し、交渉の継続の重要性につき確認。

### ▼その他

・17日、シェフチューク「大統領」は、モスクワを訪問し、ロゴジン露副首相兼沿ドニエストル担当露大統領特使と会談。

双方は、沿ドニエストル地域の経済・社会情勢及び沿ドニエストル居住のロシア国民の問題に関し協議し、地域内に駐留する露平和維持部隊の地位に変化はない旨確認。20日、同「大統領」は、露国家院CIS委員会に出席、沿ドニエストルとの物流を阻害しているとし、ウクライナ政府等を非難。

・20日、沿ドニエストル紛争の平和維持機関である合同管理委員会のモルドバ代表団は、沿ドニエストル地域駐留のロシア軍部隊の装備更新に関し懸念を表明。

・20日、沿ドニエストル「外務省」は、ロシアが主導するユーラシア(共同体への)統合及び地域の安定・安全強化のための交渉が優先課題であるとする沿ドニエストル新外交政策の改定案を発表。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。  
(了)